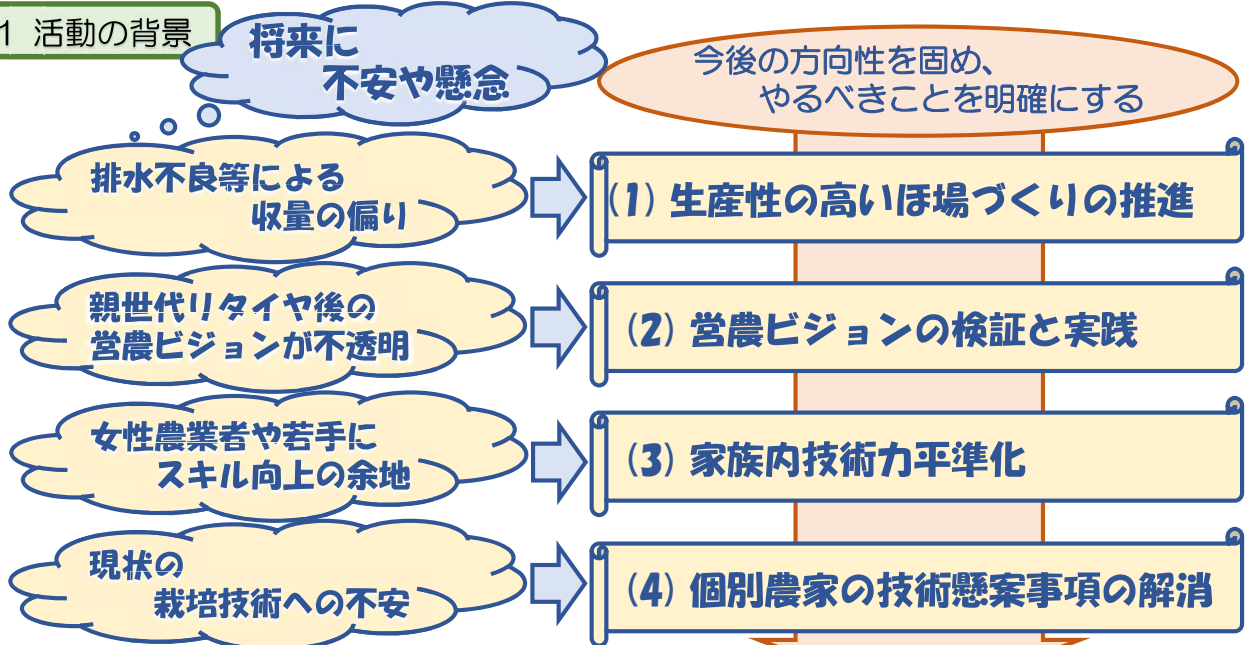




富良野市南部に位置する老節布北進地区は、標高300～320mの丘陵地で、麦類等の畑作物、たまねぎ等の露地野菜、メロン・ミニトマトが栽培されている。世代交代が進む中、将来の方向性を定め、迷いのない確信ある営農の実現を目指し、活動を行った。

1 活動の背景



問題を解決し「**確信**」のある営農の実現

2 活動の経過

(1) 生産性の高いほ場づくりの推進

- 土壌マップにより判明した課題の解決に向け活動。
- ・減肥による土壌化学性改善の実証ほを設置し、生育・収量を確認。
- ・秋まき小麦の連作回避に向けた、大豆間作小麦の実証ほを設置し、収量等を確認。

(2) 営農ビジョンの検証と実践

- 将来の方向性を明らかにすることを目標に、検討を開始。
- ・営農Naviの使用方法について講習会を実施。
- ・秋まき小麦において、シミュレーションを実施し、問題点を検討した。

(3) 家族内技術力平準化

- 家庭内で情報共有することで、技術格差をなくすことを目的に活動。
- ・夏期研修会では、情報提供の他、参加者同士での情報交換。
- ・視察研修では、最新の栽培施設や農業機械を視察。

(4) 個別農家の技術懸案事項の解消

- 個々の懸案事項を解消し、結果を地域内共有することを目的に実施。
- ・秋まき小麦の地域に適した栽培法（重要な基本5技術）を提案。
- ・全戸で実施し、有効性を確認。昨年多かった倒伏はゼロとなった。

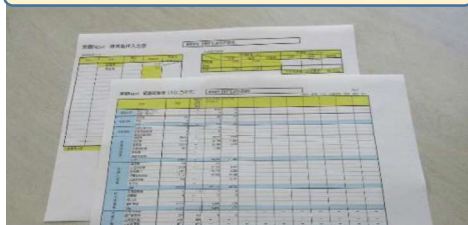
3 成果の具体的内容

(1) 生産性の高いほ場づくりの推進

提案事項	対象	実施状況
減肥による化学性改善	5戸	減肥を実施 生育に問題ないことを確認
新技術導入による連作回避	2戸	大豆間作小麦を導入 収量や収穫作業を確認
透排水性改善	3戸	準備したが、天候により実施できず

- ✓ 土壌マップに基づき減肥し、生育・収量を検証し、生育に問題なく、肥料費が約2割削減できることも確認できた。
- ✓ 大豆間作小麦も、十分な収量が確認され、大豆収穫時にも問題ないことが確認できた。
- ✓ 秋にサブソイラ等による施工を準備していたが、雨が多く次年度以降に延期。

(2) 営農ビジョンの検証と実践



- ✓ 各農家で営農シミュレーションを実施し、将来に向けた経営上の問題点を抽出。
- ✓ 肥料、農薬の高騰対策の検討を開始。

(3) 家族内技術力平準化



夏期研修会

- 身近な対策を聞き、実践に興味
- 知りたいことへの積極的な意見



視察研修

- 最新の施設・農機を学習
「これなら作業できそう」

家族内での情報共有も進んだ

(4) 個別農家の技術懸案事項の解消

重要な基本5技術 (提案事項)
適期は種
生育に応じた追肥
雑草処理
病害虫防除
適期収穫



実践と調査



✓ **実践率：83%**

適期は種、追肥、病害虫防除は、100%

✓ **倒伏はゼロ**

実践の結果、昨年多かった倒伏はゼロに

✓ **地域の平均収量：582kg/10a**

倒伏がなくなり、収量増（前年比105%）

この結果は、東山地域全体へ波及

4 今後の対応

- 調査を継続しつつ、マップを用いて、改善対策を支援する。
- 営農シミュレーションの実施を働きかけ、課題の抽出と改善を図る。
- 研修で得られた情報の家族内での情報共有を促し、技術の平準化を図る。